

5. 東海（地域別調査機関：（株）UFJ総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	その他飲食〔仕出し〕 （経営者）	・愛知万博、中部国際空港関連に、プロ野球の優勝セールが加わる。	
		都市型ホテル（従業員）	・予約数が増加している。	
	やや良くなる	通信会社（営業担当）	・年末に向けて新商品が数多く出る。	
		美容室（経営者）	・今年は7～9月と天候不順であったため客足が鈍ったが、今後2～3か月先は反動で良くなる。	
		商店街（代表者）	・愛知万博を目前に控え、その関連商品の販売量が増える。またこの地方を訪れる客が増える。	
		百貨店（売場主任）	・紳士靴の平均単価は2万円前後であるが、今月は3万円前後の靴を購入する客やまとめ買いする客も増えている。	
		百貨店（企画担当）	・歳暮商戦にやや明るさが見える。	
		乗用車販売店（従業員）	・各社が新型車を投入してくるため、市場はにぎわう。	
		住関連専門店（店員）	・販売単価も多少ながら上昇しており、年内はこのままやや良い景気が続く手ごたえがある。	
		その他小売〔雑貨卸〕 （経営者）	・商品を求める動きがやや良い。	
		都市型ホテル（経営者）	・製造業を中心に今の景気回復が持続すれば、今後サービス業でも徐々に良くなる。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊予約が早く入ってくる傾向があり、稼働率や客単価も上昇している。婚礼やそれ以外の宴会件数も増えている。 ・会社関係の接待によるレストランの個室利用も増加している。	
		住宅販売会社（従業員）	・分譲住宅では住宅ローン減税による駆け込み受注があり、売行きは良くなる。	
		住宅販売会社（従業員）	・愛知万博や中部国際空港の開港が間近に迫っているため、近隣のアパートや賃貸マンションの需要が増加する。	
		変わらない	商店街（代表者）	・客は欲しい物はある程度購入しており、祝い事も以前に比べ少し余裕を持った買い方をする。良くはないがこのまま落ち込むという雰囲気もない。
			一般小売店〔生花〕 （経営者）	・商店街は相変わらず活気がない。
			一般小売店〔薬局〕 （経営者）	・イベントを開催すると少し人の流れが良くなるが、長続きしない。
			百貨店（企画担当）	・直近ではプロ野球関連のセールがあり、一時的に客の気分を盛り上げることができる。しかしこの冬は暖冬と予測されており、コートなど高額品の動きが悪くなり、全体の売上に影響する。
			百貨店（企画担当）	・秋物は今後も好調に推移することが予想され、10月に実施するプロ野球の優勝セールを契機に、客の消費意欲は継続的に向上する。
			百貨店（経理担当）	・外商部門がなかなか伸びてこない。
スーパー（経営者）	・客の買い方をみていると、相変わらずチラシによるバーゲン品狙いの客が多く、財布のひもはなかなか緩まない。			
スーパー（店長）	・原油価格の高騰の影響で灯油の価格が値上がりすると、他の生活必需品の消費も抑制される。			
スーパー（店長）	・増税への不安感があり、特に食品は買物時にちゅうちょする気持ちが見られる。買上点数も増加しない。			
スーパー（店長）	・浜名湖花博が10月11日で閉幕し、周辺の状況も落ち着いてくる。大型店出店の余波があり、来客数は横ばいが続く。			
スーパー（店員）	・商品の市場価格が高騰しているが、消費者の低価格志向が定着してしまっており、価格転嫁できない。			
スーパー（総務担当）	・全体の売上のなかで特売商品の売上比率が2%上昇している。その一方で定番商品の売上は減少している。			
スーパー（仕入担当）	・プロ野球の優勝セールの影響も一時的にはあるが、今後2、3か月後も現状と大きく変わることはない。前年を少し下回る売上が続く。 ・ただし、豆乳製品はテレビの影響もあり、メーカー欠品が続いており、前年比150%前後で推移している。			
コンビニ（エリア担当）	・8月の競合店の集中出店が徐々に影響している。医薬品の規制緩和もあまり期待できない。			
コンビニ（エリア担当）	・競合激化による売上の前年割れ状況は今後も継続する。			

	コンビニ（エリア担当）	・一時期ほどの不景気感はないが、他店との競合はますます厳しくなっていく。
	コンビニ（エリア担当）	・最近の状況を見てみると天候などに左右されている。一本調子に上昇したり低下するということはない。
	コンビニ（店長）	・来客数の減少が足を引っ張っているが、客単価は前年を上回っている。天候次第では前年並みの売上を確保できる。
	コンビニ（売場担当）	・季節要因が不透明で売上の予測ができない。また既存店売上が落ちているため楽観できない。
	衣料品専門店（企画担当）	・4月以来ミセス向け衣料の低調さは変わっていない。購買意欲が向上する要素が見当たらない。
	家電量販店（経営者）	・原油価格の値上がりで、消費者が財布のひもを緩めることはない。
	家電量販店（店員）	・原油価格が上昇してきており、消費にも偏りが出て、あまり良くならない。
	乗用車販売店（経営者）	・今後も来客数の動きは新型車の投入数に比例して堅調に推移する。
	乗用車販売店（従業員）	・自動車業界では秋から冬にかけて各社の新車発表が続くため、競争は激化する。しかし市場が盛り上がり、客の購買意欲がかき立てられる。
	住関連販売店（経営者）	・原材料の値上げの影響で、マーケットの動向が読めない。
	その他小売〔総合衣料〕（店員）	・冬物衣料が売れ始めたとしても必需品のみを購買する傾向は今後も続く。
	一般レストラン（経営者）	・今月の落ち込み方を見ると、今後も引き続きやや悪くなる。
	一般レストラン（スタッフ）	・ここ一年ほどは景気の上向きを実感していたが、完全にはなかなか良くならない。
	スナック（経営者）	・台風の影響で来客数が減っているが、10月以降は忙しくなる。
	観光型ホテル（スタッフ）	・宴会は従来は畳の大広間で開かれたが、現在はバイキングスタイルの割安な忘年会、新年会に移行しつつあり、単価が低下する。
	都市型ホテル（支配人）	・愛知万博の特需があるが、原油価格の値上がりなどのマイナス要因もある。
	旅行代理店（従業員）	・忘年会、新年会旅行の予約は例年と比べてますますである。しかしスキーの申込は減少傾向にある。
	旅行代理店（従業員）	・製造業では景気回復が顕著なようであるが、サービス業ではまだまだである。
	タクシー運転手	・客の財布のひもは固く、お金を使わない。
	タクシー運転手	・現状を維持するのがやっとである。
	タクシー運転手	・原油価格の値上げで今年の冬は灯油も高くなるのではないかなど、最近客から良い話が聞かれない。
	テーマパーク（総務担当）	・来客数が伸びていない。前年比でみてもやや低い状況である。
	ゴルフ場（企画担当）	・12月中旬までは来場者数が一番多い時期であるが、企業が接待などで活発に利用しておらず、厳しい状態はまだ続く。
	美容室（経営者）	・現在の悪い状態が普通になりつつある。
	美容室（経営者）	・現在のところ変化はないが、競合店が増えており今後は楽観できない。
	美容室（経営者）	・相変わらず客の回転が悪い。3か月ほど髪を切らない客もいる。
	その他サービス〔珠算塾〕（経営者）	・従来なら生徒数が増加する時期であるが、ここ数年は今までの常識に当てはまらない。今後も底の状態で推移する。
	設計事務所（職員）	・一時期より来客数は増えており、新店舗や住宅の需要もある。以前のように悪くはないが、手放しで良いとは言えない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・自転車販売をしているが、輸入車が増える一方である。国産品も低価格品ばかりが売れ利益は薄い。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・消費者は少しでも出費を節約したいと思っている。中小の小売店では売上は伸びておらず、年末に向かってさらに悪くなる。
	百貨店（販売促進担当）	・気温が例年より高めなので秋物の販売時期が遅れている。このうえ暖冬になると、コートなどの重衣料の動きも鈍くなる。
	家電量販店（店員）	・家電製品はオリンピックと猛暑の影響で販売量が増えたが、今後2、3か月先は景気に好影響を与える要因がない。

		高級レストラン（スタッフ）	・これまでは悪天候や大イベントなどで来客数が一時的に減少すると、その後に反動の回復が見られたが、最近はこうした反発力がない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・浜名湖花博の終了に伴い、特に宿泊の予約状況が悪い。
		旅行代理店（経営者）	・3か月先の予約は前年比で悪くなっている。
		ゴルフ場（経営者）	・土日祝祭日でも予約は少なく、予約数は前年比で減っている。しかも低価格志向がある。
		設計事務所（経営者）	・2、3か月先につながる案件が出てきていない。ただし最近の傾向として、突然依頼が来て設計期間も短いという案件もあるため、正確な方向性はつかみにくい。
		住宅販売会社（経営者）	・土地、建物を買う客の絶対数が減少し始めている。
	悪くなる	コンビニ（経営者）	・酒類免許の自由化で、スーパー、コンビニなどが免許申請を多数出すことが予想され、競争はさらに激化する。
		設計事務所（営業担当）	・景気が良い企業は地球規模の展開をしたり独自の技術を持っているところであるが、当社は従来型から脱却できていない業態であるため先行きは暗い。
企業動向関連	良くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・3～5か月先の窯業界の景気の先行指数となる新規住宅着工件数は13.7%増加している。
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・国内販売は大口商談もあり今月比で10%の増加が見込まれ、海外販売も米国向けの増加によりやや回復している。全体としては、短期的にはやや良くなるが、国内外とも競争が激化しており予断を許さない。
		輸送業（エリア担当）	・貨物の伸びが前年よりも良い。
		輸送業（エリア担当）	・軽油など燃料の値上がりはしばらく続くが、荷動きが良くなっていることと、ここ1年でトラックが数千台減少している影響で、毎日車不足が起きており、稼働率は上がっている。
		広告代理店（経理担当者）	・引き合い件数が増えている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・受注量、契約金額が徐々に良くなっている。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・販売単価は依然として低下傾向であるが、一部の商品では販売量が増加傾向にある。
		化学工業（人事担当）	・イラク情勢や原油価格の高騰など、外部要因が不安定である。
		金属製品製造業（従業員）	・大型プロジェクトが一段落しており、今後生産は谷間期に入る。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・一般機械業界では原油と鋼材の価格上昇分の転嫁が難航しており、受注活動の大きな障害となっている。一方、建機事業は輸出が好調であるが、いつまで続くか不透明である。
	電気機械器具製造業（経営者）	・多忙ではあるが売上は完全に横ばい状態であり、景気が良いという実感はない。	
	建設業（経営者）	・倉庫、工場や事務所といった建物の新築が増えていない。一方で、改築や建物を整地して駐車場にするといった後ろ向きな動きがある。	
	広告代理店（従業員）	・愛知万博やプロ野球チームの優勝など例年にないイベントがあるが、盛り上がりには欠けている。	
	公認会計士	・中小企業の淘汰はまだ途上にあるが、原油や原材料価格の高騰の影響が今後さらに加わってくる。	
	税理士	・建売業者では土地や物件の在庫をなるべく抱えたくないという姿勢がみられるが、他業種でも同様な慎重さがうかがえる。	
	会計事務所（職員）	・愛知万博、中部国際空港の開港に向けて活気づくが、原油価格の高騰など心配材料もみられる。	
	やや悪くなる	化学工業（企画担当）	・猛暑の影響もあり上半期は良かったものの、今後はその反動で落ち込む。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・取引先が少し慎重になりつつある。
		輸送業（従業員）	・原油価格の高騰による石油製品の価格上昇が与える影響が懸念される。
		企業広告制作業（経営者）	・景気が良くなる兆しがなく、企業間格差も広がる。
		経営コンサルタント	・ハウスメーカーは土地を安く仕入れたうえで、土地は安くするが建物を高く売って稼いでいるが、地価の下落が大きくこの方法にも限界が出てくる。

	悪くなる	非鉄金属製品製造業 [鋳物] (経営企画担当)	・ 原材料価格の上昇分を販売価格に相変わらず転嫁しにくい うえに、従来取引先からの引き合いも新規の引き合いも減 少してきているため、今後も厳しい状態は続く。
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社 (社員)	・ 全体的に需要が増加している中で、愛知万博、中部国際空 港の開港が近づき、関連企業からの引き合いが増加しつつあ る。派遣スタッフをいかに確保していくかが課題になりつつ ある。
		職業安定所 (所長)	・ 高校卒業生の採用試験が開始されているが、昨年まで確保 できていた採用予定数が本年は確保できないという企業があ る。
		民間職業紹介機関 (経 営者)	・ 大手メーカーは生産拠点を中国などの海外に積極的に移し ている。それに伴って生産技術エンジニアなどの求人が急激 に増えている。
		学校 [大学] (就職担 当)	・ 求人件数は、電機、鉄鋼、非鉄金属、機械、化学、海運で 増加している。全業種にわたって人材の不足感が強まってお り、景気回復は雇用にも波及してきている。
やや良くなる		求人情報誌製作会社 (企画担当)	・ 愛知万博、中部国際空港関連以外にも多数の求人が動いて いる。今後それらの採用が本格化するにつれて、求人は上積 みされる。
		職業安定所 (職員)	・ 中小企業や公共事業が減少している建設業では厳しい状況 が続いているが、主要産業の輸送用機械器具製造業ではアジ ア、北米向けを中心に好調を保っており、全体としては当面 求人数は増加する。 ・ 求人内容は、派遣や請負が新規求人の4分の1を超える など、企業のアウトソーシング化がさらに進んでいく。
		学校 [専門学校] (就 職担当)	・ 中部圏の私学就職部によると、今年の文系学生の就職内定 率は昨年この時期の理系学生の就職内定率並みに回復して いる。また会社説明会など企業の採用機会も、昨年に比べて 回数が増加している。
変わらない		人材派遣会社 (社員)	・ 派遣受注は下期にかけても増加しており、派遣ニーズは相 変わらず高い。
		アウトソーシング企業 (エリア担当)	・ IT関連の求人数がやや減少気味であるが、自動車関連が 堅調で吸収している。労働者が不足している状態は続してい る。
		新聞社 [求人広告] (営業担当)	・ IT関連、輸送機器など輸出関連製造業は引き続き良くな る傾向にあるが、木工関連などの伝統的地場産業は壊滅状態 にあり、業種間格差、地域間格差は拡大しつつある。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	・ 求人広告や求人件数は今後も好調に推移する。しかし営業 広告が伸びていないので、今以上になることはない。
		職業安定所 (職員)	・ 請負や派遣を中心に求人数は増加している。しかし求職者 の希望条件とのミスマッチが多く、この傾向は今後も続く。
		職業安定所 (管理部門 担当)	・ かつてと比べて雇用環境は変化しているが、特に非正社員 化の動きは求職者側には受け入れられにくい。
		民間職業紹介機関 (職 員)	・ 4～6月と比べて求人、求職ともに落ち着いてきている。
やや悪くなる		求人情報誌製作会社 (編集者)	・ 今月は後半に数字が落ち込んだため、このペースでいくと 来月以降はやや悪くなる。 ・ 物流関連では営業職やドライバーなど正社員の求人に積極 的であるが、他の業種では非正社員の採用に流れている。
		職業安定所 (職員)	・ 家電メーカー関連の事業所で機械部品加工業務の海外移設 に伴う工場閉鎖があったり、製品卸売の事業所が業績悪化で 希望退職を募るなど、一時期減少していた非自発的離職者が 増加する傾向がみられる。
	悪くなる	-	-